

八ヶ岳通信

■文化財係

高島藩主諏訪家墓所が国の史跡に指定されました

少林山頼岳寺は、ちの上原の永明寺山山麓の諏訪市境にあります。高島藩の初代藩主諏訪頼水^{よりみず}が開基した曹洞宗の寺で、江戸時代初期の寛永8年(1631年)の創建です。

本堂の左側にある石段を登っていくと、壁を赤く塗装してある木造平屋建ての御靈屋があります。入母屋造りの御靈屋は3つの部屋に分かれていて、それぞれの部屋に頼水の石廟、両親の五輪塔と宝篋印塔があります。

また、御靈屋の前には頼水の子や家臣が奉納した石灯籠も設置されています。木の柵に囲まれたこの場所は、「諏訪氏頼岳寺廟所」として昭和47年に市の史跡に指定されました。

諏訪藩主の墓は、2代目以降、高島城に近い上諏訪の温泉寺につくられます。2月9日付で国史跡に指定されましたが、今回の国史跡指定は、その温泉寺の藩主の墓と同時に指定されるものです。

江戸時代には、藩主の国替えが行われたり、取り潰される家があつたりすることなどから、高島藩のように、初代藩主から明治を迎える最後の藩主までの墓が同じ地域の中にあることも珍しいとのことです。また、参勤交代で江戸に滞在中に亡くなった時であっても、亡骸を諏訪まで運んできて埋葬しており、そうしたことも珍しいといいます。

茅野市では、平成27年から御廟所周辺の広い墓所について、詳細な地形測量を行ったほか、御靈屋の建物測量、墓や灯籠などの石造物の調査を行い、現在報告書の作成を行っているところです。

頼岳寺には茅野市指定文化財が多くあり、山門から本堂に続く杉並木も茅野市の天然記念物に指定されているほか、琥珀^{こはく}で作られた観音像、頼水の父頼忠の念持仏、十六羅漢図も市の有形文化財に指定されています(非公開)。



かけがえのない自然を再発見 ~宇宙・生命を通じて~

星空はみんなのたからもの モバイルプラネタリウム公開スタート

茅野市八ヶ岳総合博物館では平成28年度から、科学教育振興事業の一環として「モバイルプラネタリウム」を導入しました。空気を使って膨らます巨大な風船のような直径5メートルの簡易ドームは、膨らますと中に20人程度入れる広さです。折りたためばリュックの中に詰め込むことができ持ち運びが可能ですので、市内学校・保育園や公民館などに出かけて投影を行うことができます。投影装置は最新データを搭載したデジタル式のもので、茅野から見たその日の星空はもちろん、過去～未来の星空や南極・北極・他の国からの星空、月面の風景や太陽系の様子なども映し出す機能を持っています。

7月7日、七夕の日に行われたお披露目投影には、招待された茅野市小泉保育園年中組・年長組のみなさんが来場し、おりひめ星とひこ星を探したり、歌を歌ったりして初めてのプラネタリウムを楽しみました。7月23日からは一般公開がスタート。現在、博物館では毎週土曜日・日曜日と祝日に投影を行っています。季節によって見える星座は変わりますし、時期によって見ごろの天体も異なります。その日に観察できる星・星座や惑星の説明のほか、毎月テーマを替えて宇宙・天文の話題を解説しています。

「うわあー、きれい!」、「天の川が見える!」、「宇宙みたいだ!」、ドームが満天の星に包まれると歓声があがります。近年、都市部では街明かりの影響などで星空が

【平成28年度一般投影のテーマ】

7月 茅野から宇宙へ

8月 火星とアンタレス

9月 秋分の日

10月 太陽系の惑星

11月 縄文人が見た南十字星

12月 流れ星を見よう

1月 第2の地球・系外惑星を探る

2月 星までの距離

3月 星の一生



失われつつあり、天の川が見える星空はとても貴重なものなのです。

茅野市から見るほんものの星空には天の川が見えます。見上げれば広がるこの美しい星空は、誰のものでもない、みんなの「たからもの」です。プラネタリウムで多くの方に星や星座に親しみ宇宙を身近に感じてもらえると期待しています。そして、私たちの町に素晴らしい「たからもの」があることをお伝えていきたいと思います。

(この事業は長野県地域発元気づくり支援金を活用しました。)

企画展

「田中茂の素晴らしき蝶コレクション」開催

平成28年(2016年)7月23日から8月28日まで、企画展「田中茂の素晴らしき蝶コレクション」を開催しました。本コレクションは、東京品川出身の田中茂さんによって、半世紀以上にわたり採集されたもので、174種、4,916個体の標本が博物館に寄贈されました。採集場所は全国各地に及びますが、関東から中部地方にかけて最も熱心に採集が行われました。国内の主だった種を網羅しており、標本の状態も素晴らしく、日本の蝶を知るための基礎資料として充実した内容となっています。また、ほぼ全ての標本に、採集地や採集年月日などの情報が付されており、学術的にも非常に高い価値を持っています。今回の企画展は、寄贈されて初めての公開で、現在は採集できないミヤマシロチョウなどの貴重な種や美しい輝きを放つゼフィルスなど、3,154個体を展示しました。あわせて、茅野ミヤマシロチョウの会による高山蝶の保護活動とその生息状況を展示了しました。



茅野市ミュージアム活性化事業

茅野市内のミュージアムは、その文化資源を活用しながらそれぞれに活発な運営をしていますが、個別の活動となりがちです。こうした状況を解決するため、ミュージアムの連携強化により、文化資源を効果的に活用し、地域の観光振興および地域の活性化に資することを目的とする、茅野市ミュージアム活性化推進委員会が組織されました。平成24年度からはじまり5年目となる本年度も、設置者が異なる様々な分野の6館（茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市美術館、京都造形芸術大学附属康耀堂美術館、蓼科高原美術館・矢崎虎夫記念館）が連携して茅野市ミュージアム活性化事業を行ない、茅野市の玄関口とも言えるJR茅野駅に隣接する文化複合施設・茅野市民館内にある茅野市美術館を事業展開の拠点としました。

本年度は事業テーマを「発見！茅野のポテンシャル」としました。そして、同事業による連携事業として、①ちのミュージアム・スタンプラリー（7月～11月、6館中3館のスタンプを集めると《色々えらべる ちのバッジ》と、藤森照信《ベジタブルシティ茅野》の特製クリアファイルをプレゼント）、②ちのミュージアム・インフォメーション（7月～11月、6館の紹介と地図、ロビーにパネルやチラシなどを展示）、③ちのミュージアム・ピクニック（11月、全2回、各館と市内のおすすめスポットをバスで巡る）を行ないました。

①ちのミュージアム・スタンプラリーはミュージアムには馴染みの薄かったであろう子どもから高齢者までの幅広い年齢層の市民や観光客の参加がありました。

②ちのミュージアム・インフォメーションは、多くの市民や観光客らが往来する茅野



ちのミュージアム・スタンプラリー



ちのミュージアム・インフォメーション

市民館ロビーを会場に、手描きによる地図と各館のチラシを設置しました。足を止めて地図をみる観光客や市民の姿が見られ、効果的な情報発信を行なうことができました。

③ちのミュージアム・ピクニックでは、全2回で5館のミュージアムと、ミュージアムで取り上げられている市内のスポットをバスでめぐり、各館の学芸員や茅野市観光協会公認観光ガイドが案内をしました。

国宝「土偶」（仮面の女神）の出土地である中ツ原遺跡を見学した後に、茅野市尖石縄文考古館にて国宝「土偶」（仮面の女神）をはじめとする考古資料を鑑賞したり、藤森照信設計の茅野市神長官守矢史料館、同氏の設計の茶室・高過庵や空飛ぶ泥舟を見学した後に、茅野市美術館の展覧会で、藤森照信のスケッチや、建築の写真作品を鑑賞するなど楽しい時間を過ごしました。ミュージアムのみではなく、市内のおすすめスポットをめぐることで、地域の魅力や宝をみつめ直し、実感する機会となりました。

今後も引き続き、各館での個別の活動にとどまらず、「市民」がミュージアムと共に多様な文化資源を活かしながら、地域のアイデンティティを国内外に発信できるような環境を目指していければと思います。



中ツ原遺跡



茅野市尖石縄文考古館



高過庵



茅野市美術館

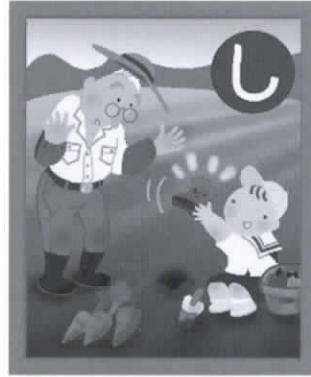
『かるた』で識る茅野市の「縄文」

小学校低学年までの子どもたちに、遊びながら茅野市の「縄文」に親しんでもらおうと、縄文プロジェクト実行市民会議の「縄文」を識る部会（監修：尖石縄文考古館）が約2年をかけて『茅野市縄文かるた』を製作しました。

国宝「土偶」（縄文のピーナス、仮面の女神）、縄文時代の衣食住などを題材に、親しみやすく、温かみのある取り札と、テンポよく読めて、わかりやすい読み札の46組から構成されます。

取り札のイラストは、市内在住のイラストレーターが、土器の形や模様、遺跡の風景など実際の姿と大きく違わないように、こだわってつくりました。鮮やかな色で描かれ、眺めるだけでも楽しめます。

読み札の文章は、市民からアイデアを募集しました。小学生から大人まで約2,900件の応募があり、特に優れ



た34句を選定しました。

頒布価格は1組800円。尖石縄文考古館、茅野市役所生涯学習課ほか2か所で購入できます。ご家庭や地区的行事など、遊びを通じて茅野市の「縄文」にふれてみませんか。

真田氏と諏訪

平成28年(2016)には、NHK大河ドラマ「真田丸」が放送され、話題になりました。当館には、真田昌幸書状や真田氏の先祖とされる海野氏、それからドラマで扱われた天正10年(1582)以降の古文書が収蔵されております。

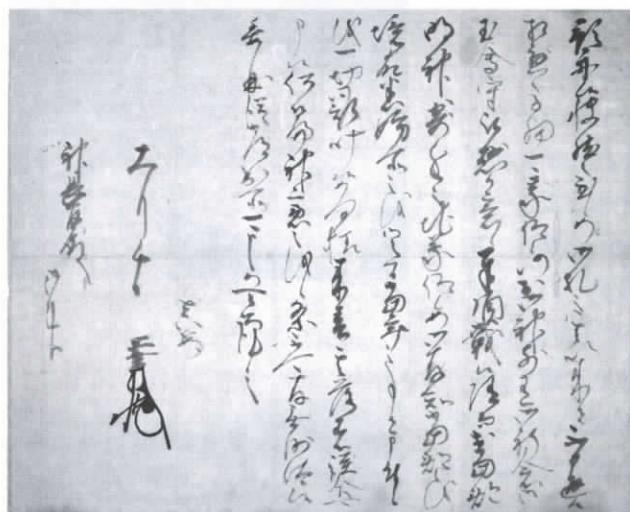
(天正10年)11月10日付真田昌幸書状は、諏訪地方では唯一残されている史料であると考えられます。真田昌幸(1547-1611)から神長官守矢信真へ送られたものです。

内容は、神長官守矢信真がこの文書に先立って、祈祷の御玉会・御守を真田昌幸へ贈り、上社への神領の寄進を要求したようです。

永禄8年(1565)12月5日「諏方社祭祀再興武田信玄下知十一軸写」によると、6月晦日の原山(上社御射山か)で行われる御作田神事の神田は、もともと小県郡上之条(上田市御所)にありました。永禄8年時には、真田が知行しており、真田へ神田の明け渡しを交渉しましたが、しきりに難渋をいうので、武田信玄が勤めるとあります。武田勝頼、織田信長が滅び、頼るべき権力がいなくなつた諏訪上社として、自力で所領の回復に努めていた

ようです。

これに対して真田昌幸は、小県郡は境界に当たるため、混乱しており、今年は一切何もできず、来年の春には協議したいということを返事しています。文面に「当郡之儀境故」とありますが、当時真田は、上杉景勝、北条氏政・氏直、徳川家康の三者によって争奪の場になっており、真田昌幸は、誰に付くのか難しい判断を迫られていた状況だったことが、この史料からうかがわれます。



(天正10年)11月10日付真田昌幸書状

茅野市の博物館・文化財だより 八ヶ岳通信 No.35 発行年月日 平成29年3月31日

編集・発行 文化財課 文化財係	〒391-0213 茅野市豊平4734-132	TEL(0266)76-2386
茅野市八ヶ岳総合博物館	〒391-0213 茅野市豊平6983番地	TEL(0266)73-0300
茅野市美術館	〒391-0002 茅野市塚原1-1-1	TEL(0266)82-8222
茅野市尖石縄文考古館	〒391-0213 茅野市豊平4734-132	TEL(0266)76-2270
茅野市神長官守矢史料館	〒391-0013 茅野市宮川389番地の1	TEL(0266)73-7567